



志るしの杉玉の里

三み

輪わ



まちづくりマップ

みわ 三輪の由来

三輪は、古代の人の信仰の対象になった神体山である三輪山の麓の大神神社と初瀬街道の街道筋に発達した集落で、本居宣長の「菅笠日記」にも記されている。

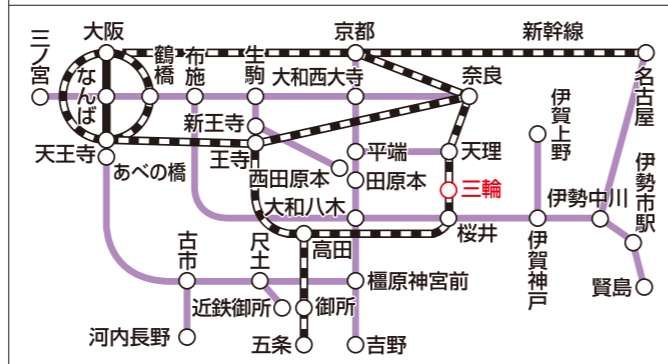
明治時代以降は、郡役所や区裁判所、警察署などが恵比須神社の付近に設置され、この地方の中心地であった。

また、三輪の名前の由来は古事記に記載されている。『みめ麗しい女性のもとに毎夜訪れる若者の着物の裾に麻糸を結びつけることを両親から教えられ、翌朝麻糸をたどると三諸山(三輪山)の社で終わっていて、麻糸が糸巻きに三巻残ったところから、この土地を三輪と呼ぶようになった。』

催事

- ・ 1月1日 繞道祭(大神神社)
- ・ 2月6日 初市 (恵比須神社)
- ・ 4月9日 春の大神祭[お渡り](大神神社)
- ・ 7月30-31日 おんばら祭(綱越神社)
- ・ 10月23-24日 秋の大神祭[太鼓台](大神神社)
- ・ 11月14日 醸造安全祈願祭[酒まつり](大神神社)
- ・ 毎月1日 月次祭[おついたち参り](大神神社)

路線マップ



協働によるマップづくり

■奈良県では、地域資源を再発見するため、マップづくりを行っています。平成21年度は次の3地区で作成しました。

名柄

田原本

三輪

■このマップは、「NPO法人 三輪座」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(奈良県)」が協働で作成しました。

■平成22年(2010年)3月発行

■問い合わせ先:

NPO法人 三輪座 (TEL 0744-49-3818)
奈良県地域デザイン推進課 (TEL 0742-27-5433)

三輪のまちの歴史

三輪は古代大和期からの地名である。

平安時代には奈良から初瀬・伊勢へ向かう街道沿いの交通の要所にあり、三輪市が開かれていたことが知られている。

江戸時代にはいと、大神神社の門前町、街道沿いの市場町と両方の性格を持って発展し、天保12年(1841)から宿場に準じるものとして認められた。問屋・茶屋や土産品販売をする家も多く建ち並んでいたという。特に素麺の生産は盛んで、「日本山海名物図会」などにも紹介されている。

町並みは、門前町・市場町としてのなごりを残しており、切り妻造り平入り、中2階建て本瓦葺きで煙だしを備えた重厚な商家が残っている。



たいこ橋:昭和30年代まで現在のJR三輪駅北側の踏切付近にあった。(大神神社 所蔵)

志るしの杉玉の由来

全国の酒蔵にお祀りされている「志るしの杉玉」。

「志るしの杉玉」は、万葉の昔から大神神社の御神木が「杉」とされていることから、『酒造りに三輪の大神のご守護を戴いて、美味しいお酒が出来るように』と、神杉の枝を丸く仕立てて、祈られてきた。

この「志るしの杉玉」は、醸造安全祈願祭(酒まつり)がすむと、全国の酒蔵に届けられ、新酒の販売開始と共に店頭に掲げられる。

大和名所図会



寛政三年(1791) 秋里離島著の第四巻より



現出口橋付近より北方の町並み(大正4年) (島岡宏氏 所蔵)

三輪そうめんの歴史

そうめんの原型は、奈良時代に中国から遣唐使によって伝えられたとされ、「素餅」と呼ばれていた。三輪の肥沃な土地と巻向川、初瀬川の清流が、小麦の栽培に最適であったため始まったとされている。

鎌倉時代には、細く長く伸ばすことができるようになり、南北朝時代には、素麺と呼ばれるようになった。江戸時代に入り、お伊勢参りにより声価が諸国へ宣伝され、各地の人がそうめんの製造技術を習い、全国に素麺作りが広まっていたと言われている。



日本山海名物図会(1754年)より(提供:三輪そうめん山本)

「大和三輪素麺 名物なり細きこと糸の如く白きこと雪の如しゆててふとらす 余国より出づるそうめんの及ぶ所にあらず」と記されている。

三輪みわ

① 網越神社
 大神神社摂社。通称「おんぼらさん」。七月末の夏越祓では茅の輪をくぐり人形に身の穢れを移して邪気を祓う。奉納花火大会(七月三十一日は地元夏の風物詩)。

② 三輪の茶屋跡
 近松門左衛門の名作「冥途の飛脚」悲恋の逃避行の場面となる三輪の茶屋「竹田屋」跡。主人公梅川忠兵衛之碑がその名残を留める。



③ 一の鳥居
 大神神社(三輪明神)第一の鳥居。これより東に松並木の参道が続く。現在の鳥居は、大鳥居の建立に合わせて昭和六十二年に建て替えられたもの。



④ 池田家
 大正十五年築の元酒造家。広い間口の玄関を備えたどっしりとした本家。右手の戌亥蔵の白壁など、重厚な趣がある。



⑤ 柴田家
 築約三百年の元庄屋。酒造業のほか、戦後すぐまで製菓業も営んでいた。家が低いのではなく道が高くなった。まさに歴史である。



⑥ 池田家
 明治二十三年築の三輪素麺問屋。軒にある菊の御紋入りガラス張り看板。「緒隈素麺司」は明治天皇の天覧をきっかけに揚げられた。



⑦ 恵比須神社
 水害で流失した日本最初の市場「海柘榴市」の市神がこの地に移されたとの伝承がある。二月の初市祭は特に賑わう。地元商人の守護神「えべっさん」として名高い。



伊勢街道(初瀬街道)

0m 50m 100m
 地図の上の1cmは約28mです。

P 駐車場
♿ トイレ
📷 ビューポイント

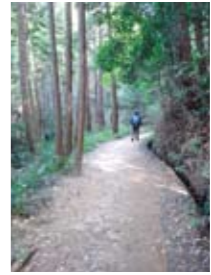
右なら
 左はつせ、いせ



⑪ 三輪中町ギャラリー「醸」
 「醸(かもす)」市民レベルの文化活動を気軽に発信できる町家ギャラリー。三輪に、年々新しい賑わいを醸し出していく催しの拠点にもなるよう「醸」と名付けられた。平成二十二年四月オープン。



柿山展望台
 春分・秋分の日には二上山に沈む夕日が見られる



⑧ 三輪座
 三輪まちづくりグループの拠点として平成十八年にオープン。地元産品販売や喫茶営業の傍ら、観光案内所としての役割も果たしている。

⑭ 山の辺の道
 『海柘榴市』あたりを基点に奈良盆地の東の山麓を北に続く古代の国道二号線。道筋には大和王権の宮跡や巨大墳墓が点在する。

⑮ 山の辺の道
 平等寺

JR三輪駅

三輪座
 JR桜井線(万葉まほろば線)
 郡役所跡



大和三山の眺望が広がる

⑨ 石河家
 創業百六十余年の和菓子舗が営業移転を契機に店舗部を開業当時の姿に復元。築約二百五十年。商家らしい省スペースの仕掛が楽しい。



⑩ 今西家
 明治二十四年築の酒造家。裏の蔵は江戸期の築。玄関の杉玉が緑に変われば新酒の季節。万葉集において味酒を枕詞とする三輪に相応しい光景である。



⑬ 外嶋家
 築約二百年の元材木商・両替商。本瓦葺の本家は美しい四間取りとなっている。(旧織田藩蔵方)

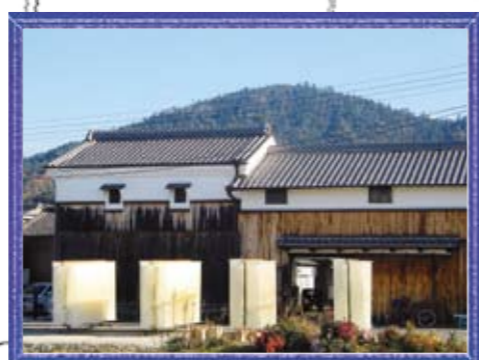


⑮ 奥山家
 五代以上続く医師家。特に大きな本家を設けず、広い庭園を囲むように棟が配置されている。道に面する門屋は文化年間の築



⑭ 喜多家
 十五代続く元庄屋。現在の建物は安政年間の築。本玄関(特別な行事の際の出入口)のために専用の橋があった。

⑫ そとめん通り
 長い庇を備えた素麺製造家が軒を連ねた通り。素麺は天日乾燥だが、不意の雨の際には機(素麺を干す道具)を庇下に取めた。



三輪山とそとめん門干し

⑯ 出口橋
 昭和初期に現橋に架け替えられるにあたって現名に。磯城郡下の郡役所等の官公庁が三輪にあり、中心からの出口がここであった。



金屋の石仏
 つばいち 海柘榴市 観音

この地図の建物の範囲は、おおよそ明治41年の測量地図をもとに三輪のまちを表したものです。